

会 議 記 録

会 議 名	平成30年度矢板市総合教育会議
開催日時	平成30年10月16日（火） 16:05～17:15
場 所	矢板市生涯学習館 研修室（1）
出席者	<p>【構成員】 齋藤市長 教育委員会 村上教育長、矢板教育長職務代理者（欠席） 石塚委員、岡委員、池田委員</p> <p>【出席依頼職員】 教育総務課 高沢部長兼課長、山崎課長補佐 小野指導主事、森本指導主事 生涯学習課 山口課長、関社会教育主事 スポーツ推進班 星班長 矢板公民館 田城館長 泉公民館 駒野館長 片岡公民館 塚原館長</p> <p>【事務局】 総合政策部 横塚部長 総合政策課 室井課長、加藤課長補佐、齋藤副主幹</p>
傍聴者	なし
<p>開会 16:05 （進行：総合政策課長）</p> <p>1 開会 【総合政策課長】 ただ今から、平成30年度 矢板市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>2 あいさつ 【総合政策課長】 はじめに、齋藤市長よりごあいさつを申し上げます。</p> <p>【齋藤市長】 教育委員の皆様におかれましては教育委員会定例会に引き続いて本会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、皆様におかれましては、日頃から子どもたちの教育や生涯学習の充実・発展のためにご尽力いただいておりますことに厚くお礼申し上げます。さて、この総合教育会議でございますけれども、市長と教育委員会が円滑に意思疎通を図り、本市教育の抱える課題や目指すべき姿を共有しながら、教育行政を推進することを目的としておりまして、毎回テーマを設定したうえで、平成27年度から毎年実施をさせていただいている会議でございます。本年度につきましては、子どもの教育環境をテーマといたしまして、今後の課題や取組について意見交換できればと考</p>	

えております。子どもの教育環境についてと申しまして、多岐にわたっております。このうち、小中学校の適正規模・適正配置につきましては、本年6月13日付で教育委員会から、矢板市小中学校適正配置検討委員会に諮問がなされているところですが、本日は差支えない範囲で結構ですけれども、現時点での皆様方からのご意見、ご提言を頂戴したい、このように考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【総合政策課長】

ありがとうございました。次に、矢板市教育委員会、村上教育長よりごあいさつをいただきます。

【村上教育長】

30年度の矢板市総合教育会議ということで、委員の皆様にはお集りいただきましてありがとうございます。日頃から教育委員会が市長部局の中で外れているところがありますから、教育委員会として言いたいことがたくさんあるのではないかなと思いますので忌憚ないご意見をいただきたいと思います。教育行政の費用については、人件費もありますけれども、やや右肩下がりのところもありますので、その辺もお考えいただいて、特に教育環境についてはお金もかかることがたくさんございますが、ご意見いただきたいと思いません。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【総合政策課長】

ありがとうございました。

続きまして、本日の会議資料の確認をさせていただきます。

まずは、次第、出席者名簿、席次表、矢板市総合教育会議設置要綱、矢板市教育大綱となっております。不足等がありましたら、事務局へお申し付けください。別途、教育要覧をお持ちになっていただいているかと思いません。

3 議題

【総合政策課長】

それでは、これより、早速、議題に入らせていただきます。

本会議は、矢板市総合教育会議設置要綱第3条の規定によりまして、市長が招集することとなっておりますので、ここからの議事の進行につきましては市長をお願いいたします。よろしく、お願いいたします。

【市長】

それでは、本日のテーマ、「子どもの教育環境について」でございますけれども、まず、矢板市教育大綱をお目通しいただいて、一番後ろのページ、目標5「教育環境を充実する」という項目がございます。ひとを育むうえで、教育環境を充実させることは、とても重要です。未来の矢板市を担う子どもたちの教育環境を充実させます。そのために以下の取組を進めますと、具体的な取り組みが記載されているところでございます。目標5「教育環境を充実する」という項目に即する形で意見交換をさせていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。4つほど具体的な項目が挙げられておりますが、一番下の教育施設を充実するということについては、特に施設、ハード面の整備ということがあろうかと思いません。非常にお金がかかる部分でもございます。そういった中で、なかなか矢板市も財政事情が困難な中で、こういった教育施設に充実なお金を投じることができないという状況でございますが、そういった中でもなんとか知恵を絞って、矢板の

次世代を担うお子さんたちのためにより良い教育環境を整備していきたいと考えているところでございます。

そういった中で、冒頭のごあいさつの中で申し上げましたように、小中学校の適正規模及び適正配置につきましては、現在、皆様方の諮問によりまして、矢板市小中学校適正配置検討委員会がこれまで3回開催されまして、適正規模・適正配置につきまして審議がなされているところでございます。そういった委員会のご意見、答申は皆様尊重されることと思っておりますが、予算を所管させていただいてる市長部局から、この適正配置等について、皆様のお考え、ご意見をお聞かせいただきたいと思いますと思っております。差し支えない範囲で、委員さんそれぞれのお考えをお聞かせいただければ、大変ありがたいと思っております。

まず、なぜ、小中学校の適正規模・適正配置という話になっているかということについて、私からお話させていただきたいと思っております。そのあと、お手元に、適正配置検討委員会のアンケートの結果がございまして、高沢部長からご説明いただきたいと思います。

小中学校の適正規模・適正配置につきましては、矢板市における公共施設の在り方の検討が前段にございます。

まず、遡ること、平成26年4月に、本格的な人口減少社会の到来が見込まれるなかで、国が、全国の地方自治体、市町村だけではなく、都道府県に対しても、それぞれ管理をしている公共施設の総合的かつ計画的な管理といったものを要請したところでございます。そこで、矢板市におきましては、国の要請に基づきまして、まず、平成28年8月に矢板市内の公共施設の現状を取りまとめました「矢板市公共施設白書」という、150頁くらいの資料を作らせていただきました。そのうえで、今後30年間の公共施設の在り方を示した「矢板市公共施設等総合管理計画」を去年の3月に作らせていただきました。少し具体的な内容として、宇都宮大学教育学部の陣内雄次先生に計画策定委員会の委員長になっていただきまして、市民委員の皆さんによるご審議やご意見を得て、平成29年度から平成58年度までの30年間で、矢板市の公共施設の床面積ベースで4割削減するというような数値目標が設定されたところでございます。公共施設を床面積ベースで4割削減する施設には小中学校も含まれているわけでございますけれども、小中学校を含めた公共施設の4割削減といった目標を具体的に達成するための計画として、今年3月に「矢板市公共施設再配置計画」という計画が策定されております。この計画策定にあたっては、先ほどご紹介させていただきました宇都宮大学の陣内雄次先生に委員長になっていただきまして、5回にわたる委員会の議論だけではなくて現地調査や公開シンポジウムを実施させていただいたほか、計画の素案については、泉地区、矢板地区、片岡地区の3地区で丁寧にご説明させていただいたところでございます。この公共施設再配置計画では、矢板市が管理する公共施設133施設、小中学校だけではなく、例えば体育館ですとか、この生涯学習館、魚菜市场、片岡の農業者トレーニングセンター、泉・片岡・矢板の公民館も含まれておりますが、133施設のすべてについて、まず1つ、廃止・譲渡・貸付するパターンと、2つ目が長寿命化・改修・更新するパターン、これは少しずつ直して引き続き使っていきたいという考え、そして統合・複合化という3つの方針が打ち出されたところでございます。ここで、廃止とされた施設については廃止ありきなのかというお尋ねをされることがありますが、誤解を恐れずに申し上げれば、その通りでございます。先ほど申し上げましたとおり、矢板市の公共施設は133施設あり、延べ床面積で147,446㎡でございます。市民1人当たりの公共施設の延べ面積は4.1㎡、全国平均の3.2㎡を大きく上回っております。3.2㎡と4.1㎡では、そんなに変わらないと思われるかもしれませんが、矢板市の人口33,000人を掛けてみますと、よその町より公共施設を持っていることがお分かりになるのではないかなと思います。また、皆様ご承知の通り、矢板市の公共施設いずれも老朽化しておりまして、更に申し上げれば、耐震基準を満たしてい

ない危険な施設もございます。

今後、こうした施設を同じ規模で維持していくためには、莫大な費用が必要となります。推計によりますと、平成29年度から平成58年度の30年間でこれら公共施設等の維持更新に必要な金額は1,262億円と言われておりますが、現在の矢板市の財政状況からそこに使える額というのは727億円しかないの見込んでおります。1,262億円から727億円を引きますと535億円足りない、1年あたりにしますと年間18億円足りない、財源不足が生じるとなっております。これらの財源不足を補うために、先ほど申し上げましたように、延べ床面積ベースで40%の削減という、他の市町と比較して非常に高い目標を達成しなくてはいけないということでございます。なおこの考え方、計算の仕方でございますが、矢板市独自の考え方ではなくて、国のガイドラインに沿って、どの地方自治体においても同様に目標を設定しているところでございます。

そのような中、ここからが大変なところでございますが、矢板市では、どんな施設が多いのかと申しますと、1つは、公営住宅、市営住宅でございます。矢板市100戸当たりの市営住宅の管理戸数は栃木県内で1番に多い状況です。そういった中で老朽化している住宅については、入居はしてもらわないという取扱いを始めさせていただいております。

次に際立って多い公共施設は、実は小中学校でございます。小中学校併せて12校、人口33,000人のスケールで12校というのは非常に多いと言われております。さくら市では、旧氏家町の人口が矢板市を追い抜いたと聞いておりますが、旧氏家町でいいますと、中学校は、県内有数のマンモス校ではございますが、氏家中学校しかございません。それに対し、矢板市は、矢板中学校、泉中学校、片岡中学校の3校がでございます。旧喜連川エリアで申し上げますと、喜連川中学校だけ、小学校も統廃合が進みまして喜連川小学校、1校だけでございます。さくら市の人口は本市より1万人以上多いところでございますが、そのような状況です。さくら市では中学校が2つ、矢板市はさくら市より人口が少ないですが3校となっております。人口が少ないところはどうかといいますと、塩谷町では、10年以上経っているかと思いますが、3つの中学校を1校にしました。小学校につきましても、旧玉生地区、大宮地区、船生地区で2、3つあった小学校をそれぞれ1つにしています。小学校が3校、中学校が1校という状況でございます。学事職員録でざっと数値をはじいてみたんですが、1教室あたりの子どもの人数というのは、矢板市は1番少ない状況です。これは、少人数化が進んでいて大変よいことだとみる一方で、施設整備、予算の面から申し上げますと、これから後で触れさせていただきますが、例えばエアコンの整備、多くの教室にエアコンを設置しなければならないという状況です。普通教室に100%エアコンが設置されているのは、塩谷地区2市2町で申し上げますと、塩谷町、さくら市、高根沢町では、特別教室にもエアコンが設置されておりますが、矢板市は小中12校ある中で、泉小学校だけ、普及率は8.数パーセントという、このことも今まで踏み切れなかった大きな理由なのかなと思います。この公共施設再配置計画というのは、子どもの将来を考えてですとか、皆様から委員会への諮問書にもありましたような、子どものふるさとを愛する心と自ら学ぶ力を育てる教育の実践というのは、まったく顧みられていない計画でございます。そういった中で、矢板市としては、より丁寧に、学校施設ですとか、体育施設ですとか、または、泉地区、片岡地区といった地域ごとに施設の在り方を検討していく必要から、小中学校につきましては、教育委員会にお世話になりまして、現在、小中学校適正配置検討委員会を設置していただき、議論していただいているところでございます。まずは、私から、その議論の前段の部分を、少しお時間がかかり申し訳ありませんが、お話をさせていただいたところでございます。

続きまして、今の適正配置検討委員会、特にアンケートの状況を、高沢部長、ご説明いただけますか。

【教育部長兼教育総務課長】

はい、それでは、市長から小中学校適正配置検討委員会についてお話しさせていただいておりますが、子どもたちにとってより良い教育環境と充実した学校教育実現のためということで、適正配置検討委員会は設置されたわけでございます。まずは、皆さんのご意見ということで、アンケートを取らせていただいております。

対象は、小学校5年生と中学校2年生、その保護者の皆様、未就学児の保護者の皆様、現場を支えて下さっている小中学校の教職員、一般市民の皆様を抽出させていただいております。回収率は61%、学校関係は直接回収しておりますので高い回収率でしたが、保護者は興味関心が低かったのか、そこは低くなっておりますので、合わせますと61%という回収率となっておりますが、アンケートとしては高い回収率ではないかと思っております。その結果でございます。まず、学校規模についてでございますが、1学年の学級数はどれくらいがよいかという質問に対しましては、小学校は2～3学級が良いのではないかというお答えが83%、中学校は3～6学級が良いのではないかというお答えが86%でございました。それから、1学級の人数、矢板市は1番少ないと市長からお話がありましたが、求めるものとしては、小学校は21～30人が71%、中学校は26～35人が78%でございました。この学級数につきましては、栃木県が少人数学級を取り入れて下さっていますので、小学校は1年生から4年生までは35人が定数でございます。5年生、6年生は40人、中学校につきましてはすべての学年で35人ということですので、大体求める数値と一致していると思います。次に、適正配置についてでございます。こちらにつきましては、アンケートの内容を検討するときにも、検討委員会の委員さんのなかでもご意見が分かれたところですが、統合にずばり切り込んでお尋ねをしました。この結果が吉と出るか凶と出るかという部分はございましたが、幸い、皆様現状を十分にご理解いただいているのかなという部分がございます。統合に対する考え方ということで、「統合すべき」と「統合もやむを得ない」という答えが88%という非常に高い割合を示しております。ただ、これは矢板市全体として捉えたときでありまして、いざ自分の学区と考えたときには、数値が落ちまして、やはり地元の学校は「賛成する」「どちらかといえば賛成する」という考えが過半数を超えておりますが、先ほどの88%よりかなり落ちまして65%という数値でございました。結果については以上でございます。

【市長】

適正配置検討委員会で今後も議論の方をしていただきまして、今年度中に教育委員会に答申が出てくるということでございます。国からも平成27年1月に「公立小中学校の適正規模適正配置等に関する手引き」が出る中で、小学校については、複式学級を解消したうえで、1学年2学級以上あることが望ましいと具体的に示されているところがございます。再配置計画に基づきますと、小中学校12校ありますが、残れるのは、という表現としては度きついいところがありますが、中学校は矢板中学校1校だけ、小学校は矢板小学校、東小学校、片岡小学校…。片岡中学校は駄目だけど、片岡小学校は大丈夫なのですか。

【教育長】

基幹校になっていますから。

【教育部長】

基幹校にはなっていますが、規模でいうと、1クラスしかなくなってしまうので、小規模校になってしまい、基準に合わせると3校になります。

【市長】

基準では3校だけど、計画の中では、片岡小学校、安沢小学校も大丈夫ではなかったか。

【教育部長】

手引きに当てはめると、3校になってしまいます。

【市長】

手引きに当てはめると、1クラスしかないようなところは、という話になる。手引きの方がむしろ計画より厳しいということでございます。この前、この件について、片岡中学校はなくなってしまうんですかと、PTA会長さんからお話がありました。特に中学校については、1学年2学級ではなくて、教科担任制をとるので3学級という具体的な数値が示されているということでございます。これをどのような受け止め方をするのかというところでございますが、予算を預からせていただいているところからすると、非常に、誤解が生じることを恐れずに申し上げますと、西小学校につきましては、来年3月で矢板小学校に統合されることになっており、この公共施設の再配置について、小中学校の適正規模適正配置の委員会に先立って議論の方を進めさせていただきましたが、予算のことだけで申し上げれば、コストパフォーマンスが悪いと申し上げたこともございます。もちろんコスパだけでは語れないことがあるとはいえ、適正規模をどのように考えるのか、一人ずつご発言をお願いしたいと思います。どうでしょう、石塚委員。

【石塚委員】

実際子どもが少なくなってきた、それこそ、片岡については1学年1学級という現状もありますし、統合は致し方ないという部分があるのかなと思います。それに合わせて、いろいろな特色を持った学校づくりをしていった方がいいのかなと感じています。

【市長】

岡委員のお子さんは乙畑小学校に通っていらっしゃいますが、乙畑小学校は、まだお子さんの数が増えていくという見通しがありますが。

【岡委員】

これから増えるけど、いずれ下がっていくことはわかっている状況です。ここにもあるように、地域と学校の連携が非常に良くなっている乙畑の流れを崩すのが勿体ないという部分があるのと、ただ保護者の中でも合併するは仕方がないという声は最近が増えてきたという部分はあります。地域の人たちも納得してもらってというところになると、合併するのであれば、それなりの特色を持って統合することで、子どもたちにもメリットがあるようなことがあると、より納得してくれて、更に地域の人がそこに協力してくれるのかなという部分はあります。

【市長】

乙畑小学校については地域の皆さん方が放課後子どもスクール、乙畑ひまわりスクールですか、岡さんのお子さんも行っちゃいますか、非常に地域の皆さんでしっかり、学校を盛り上げようとしている有難い取り組みです。その辺、教育長、卒業生としてどうですか。

【教育長】

上手くいっている例であるとは思いますが、支えてくださっているのは60代から70代の方が多いので、あと10年もすればその方たちの協力を得られなくなる、その後の世代が続くのかというところがあります。モデルとなるような形であるのは確かです。いろんな点で地域の盛り上がりや学力にも繋がっていて、夏休みもほとんどひまわりスクールを実施していただき、宿題なんかもそこでやってしまうような子もたくさんいるらしくて、上手くいっているのかなという感じはあります。将来像をみると、やっぱり30年先がこの問題の一番大きいところで、市長がおっしゃっている25,000人を30年後に維持できるかわからないですけど、25,000人の人口でどの位にするかということも考えていかなければならないと思います。その辺がしっかりとした学校像というか、未来に向けての学校像づくりが大切なのかなと思います。

【市長】

なかなか、そこが難しいところがございます。教育長がおっしゃっていたように、乙畑小学校は地域の皆さんがしっかり支えて下さっていて、学力も高いと言われていました。西小学校は3月で閉校になりますが、平成25年に放課後教室をスタートした時点から指導者を付けていただいていたけれども、乙畑ひまわりスクールについては平成28年度までは地域の皆さんだけで運営を、地域の方が運営委員会を組んでいただいていたということで、そういった地域社会のシンボリックなところは大切にしたいということなのかなと思います。池田委員、泉地区は、10年ちょっと前に小学校統廃合をしたばかりであります。泉小学校についてもお子さんの数が減っている状況でございますが、地域にお住まいの方はどうですか。

【池田委員】

子どもさんを見かけるのは本当にイベントの時くらいになっています。スクールバスも使われて、小学校が完全に1つになっているので、そこからまた統合するとなると、地域住民の人たちもその卒業生だから、地域の拠り所みたいなところと、なんとか学校を支えようという地域力、そういうものはやっぱりあると思うんですね。今の状況からすると、少なくとも、数からいくと、距離的なものも含めてスクールバスを使えば、矢板中学校と一緒にするのは図としては浮かぶと思いますが、いきなりそこにいくというよりは、たとえば部活に関しては、自分のやりたいメニューが限られてしまうので、部活は矢板中学校と一緒に人数的にまとまった形でやることからやっていくことでもよいと思います。片岡地区は距離的な部分があると思いますが、泉小学校はスクールバスで十分に1つになっていますので、行先が市内に近くなっても、安全を考えても、いいのではないかと思います。

【市長】

小規模校の部活動はどうなんですか。

【教育長】

部活は、泉中学校の場合、野球部は、昨年度はある程度の人数がいたんですが、平成30年度は単独ではチームが組めず、矢板中学校との合同チームで活動しています。両チームとも人数が足りなければ統合できるが、片方が9人揃っているとチームを組めないことになっているので、大会に出ることができない。今回は矢板中学校も泉も9人以下だったので、組むことができました。

【市長】

矢板中学校も9人以下なんですか。

【岡委員】

片岡中学校もたぶん野球は組めないと思います。

【教育長】

喜連川中学校や塩谷中学校と組んでいて、今は塩谷中学校と組んでいます。

【市長】

野球だけですか。サッカーはどうですか。

【石塚委員】

サッカーは、片岡小学校と乙畑小学校の合併チームを組んでいます。

【教育長】

小学校は規制がないので、野球チームは矢板チームと矢板南チームの2チームしかない。川崎が単独であるから、3チームあります。

【岡委員】

中学校は、矢板中学校はサッカーが4人か3人です。

【池田委員】

全部統合できるといいですよ。

【市長】

私も西小学校、小規模校の卒業生ですけれども、小規模校といっても全校生徒が150人位いましたから。私も含めてクラスメイトは17人、男子8人、女子9人でしたけど、ちょっと上手い5年生を入れれば、野球のチームもサッカーのチームも単独でできましたし、女子についてもバスケットもソフトも単独で学童も出られたりしたんですが、西小学校は今26人で、1年生まで入れればなんとかという状況であります。小規模校といっても、どこまでということを考えないといけないかなと思います。確かに小規模校はきめ細かい指導を先生方にしていただけだと思いますけれども、部活動にしても選択肢がなくなってしまうということについては考えなくてはいけない。サッカーなんかはクラブチームがあるんでしょうけど、いま教育長からお話があって、矢板中学校でさえサッカーも野球も人数が少ない。

【岡委員】

みんな逆にサッカーに関してはクラブチームに入るの、部活動が成り立たない。

【市長】

星班長、スポーツ競技力の向上からみた、運動部だけで申し訳ないんですが、この事態をどのように思いますか。

【スポーツ推進班長】

サッカーに関しては、クラブチームで成り立つものなのかなと。部活というのは難しいと思うんですが、やはり部活という選択肢も残しておかないと。スポーツの取り組み方は

それぞれなので、選択肢は残しておきたいと考えています。

【市長】

それは体育協会加盟団体の支援をいただいてみたいな、その辺どうですか。バスケットボールに詳しい山口課長、矢板の小中学校にバスケ部はあるんですか。

【生涯学習課長】

泉はないです。矢板中学校で男女、片岡中学校は女子です。小学校は矢板、東です。

【市長】

ジュニアの育成という観点から、今の状況はどうですか。

【生涯学習課長】

体育協会加盟団体も似たような状況だと思うんですが、週1、2回の教室開催を小中学校でやっています。ただこれを部活動に置き換えるとなると、時間的な問題ですとか、60歳で引退された方が指導にあたっていただいたケースもあるんですが、今は65歳以降の定年もあり、指導者も高齢化している状況にありますので、就業時間内での指導となると結構厳しい状況にあります。

【市長】

競技力の向上ということからしても、部活動の在り方について、教育長いかがですか。

【教育長】

部活動の考え方は、2つあって、アスリート系は部活動では担えないのではないかという考え方があるんですね。アスリート系はクラブに委ねて、部活は自主的な生徒の活動ということで、スポーツを楽しむとか生涯スポーツの中で生かせるようにという方向が主な方向になっています。そういう風に絞ってしまうと困るという保護者もいますが。将来プロスポーツ選手にするには、部活の役割はほぼ終えてきたかなという感じです。錦織選手のように別な組織で育てていかないとプロ選手が育たないと、一部は育つかもかもしれませんが、それを目的にはできないんじゃないかというのが今の主流になっています。

【市長】

本筋から外れてしまうんですが、これだけ聞かせてください。先生方の中には、部活動を生徒指導の一環だと考えておられる方もいる。指導主事の先生を代表して小野先生、部活動はやはり生徒指導の一環として、教育現場としては欠かせないものなんではないでしょうか。

【指導主事】

実際に生徒指導の面はあると思います。部活でインセンティブを取っている子もいまして、学校の授業、学校生活では輝けない子も、部活動では輝ける子もいるんですね。そういった場合に自分の居場所を見つけて、それがその子にとっては励みになって、そういうことで生徒指導に繋がる場合があります。ちゃんとしようとか、ちゃんとやっというとか、先生が部活を通して、その子たちに目的を示していくという、そういう面は確かにあると思います。

【市長】

部活動はやっぱり必要なところもあると、ご賛同いただけるのかと思いますが、どういうくくりの中で考えるか、考えていかななくてはならない課題なのかなと。そういった中で、今後、先生方の相互乗り入れみたいな形でやっていただけるような仕組が、まずはですね、素人考えではあるんですが。

【村上教育長】

10月30日に、ヴェルフェたかはらの方とか、体育協会の方を含めて、部活動担当者と、校長と教務主任を集めた検討会議をやることになっています。これからの部活動について、外部指導も含めて検討します。

【市長】

これも本筋からは外れてしまうかもしれませんが、小中学校、特に小学校については、子どもを教育する場としてだけではなくて、池田委員からありましたが、地域社会のシンボリックなところがあると思うんですよね。それをどういう風な形で、しっかり地域のアイデンティティを守り育てていくかということもあると思うんです。仮にですが、乙畑小学校がなくなった場合、乙畑、大槻の人は、地域の喪失感は大きいものなんじゃないでしょうか。そこら辺の思いをいたしながら議論していかなければならないと思うんですよね。

【岡委員】

そうだと思うんです。保護者は結構割り切れちゃうのかなと思います。

【市長】

割り切れない人がいるということですか。

【岡委員】

上の方、思い入れが強い、「あのマークは俺が作ったんだ」、「あの木は俺が植えたんだ」という人がいると。でも、子どものためと思ってくれている人が多いから、理解してくれると思うけれども。やはり子供たちにメリットがあるからということをすれば理解してもらえるのではないのでしょうか。

【市長】

岡委員、先ほどから前向きにお話いただいています、メリットって何かほかに考えていることはありますか。例えば、乙畑小学校と片岡小学校は一緒になってもいいとか。

【岡委員】

義務教育校とか、小中一貫とか。

【市長】

小中一貫とは、片岡中学校とですか。

【岡委員】

片岡中学校、乙畑小学校、片岡小学校が一緒になることです。片岡小学校は駐車場がない、乙畑小学校の方が駐車場的な所があるよねと言っている片岡小学校の保護者もいます。

【市長】

乙畑小学校に片岡小学校がくるってことですか。

【教育長】

中学校も、ということ。

【岡委員】

中学校をこっちに持ってくるか、向こうに持っていくのかは、

【市長】

組み合わせはいろいろあると思うんですよね。教育長どうですか、小中一貫ですとか、最近では義務教育学校、6・3・3制自体も崩してみたいなという話もございますが。

【教育長】

そうですね。利点は、9年間一貫になるので、かなり自由な教育ができて、例えば、1年生から4年生までは今の小学校の形にして、5年生から中学3までは教担制にする。先生方も小中学校入り乱れて授業ができるので、割とちょっとした規模でも人数以上に活用できます。例えば、片岡中学校を2クラスで想定しても、小学校の先生が中学校に行く、中学校の先生が小学校に行くというような教科の交流ができるので、割と先生を揃えやすい。例えば、美術とか音楽とか家庭科とかの教科は、小学校に免許持っている人がいて、その方が中学校の授業に出るとか、中学校の数学の先生が小学校に行くという割と自由な、少し先生の活用率が高まるかなというように、義務教育校はやりやすいと思われま

【市長】

文科省の指針だと、中学校1学年3クラスというのは教科担任制で先生が確保できないということからですか。

【教育長】

そのとおりです。

【市長】

要は、小中学校一環になれば、小学校の先生でその教科の人を持って行って授業ができるということですか。

【教育長】

それが校舎一体型であれば理想的です。

【池田委員】

先生はたいへんですね。

【市長】

いろんな学年を見ないといけない。

【教育長】

中学校へ行くと、子どもたちはこうなっているんだねと、お互いに見られるので、多少プラスαが、義務教育校は今のところはあると思います。

【市長】

施設一体型の小中一貫校、義務教育校は、近くでいうと高根沢ですか。あれは施設一体型ではないか。

【教育長】

一体型は、塩原だけです。規模は小さいですけど、完全な一体型です。

【市長】

どうですか、石塚委員、片岡中学校が小中一貫というイメージは。

【石塚委員】

私は元々片岡の住民ではなかったものですから。地域の方々の意見を聞くとやはり寂しいという意見は多々あるんですね。やっぱり実際子どもたちのことを考えれば、小中学校一貫はいいんじゃないかと私個人は思っています。ましてや、そこにコミュニティ関係のことが入ってくるような施設になればもっとすばらしい施設になるのかなと思います。

【市長】

片岡公民館長に質問する前に、小中一緒という話がありましたけれども、池田委員のご地元の泉小学校、泉中学校は、去年から、小・中一体となった運動会を実施しており、私も2回ほどお邪魔させていただきましたが、盛り上がっていて、中学生が小学校1年生の手を引いていろいろお世話したりしていました。泉地区の小中一貫化は別にして、小中一貫に対して、評価、イメージとしてはどんな受け止められていますか。

【池田委員】

小中一貫にすれば、設備的にも共有の部分も充実するし、教育効果としてはすごく上がるし、話を聞いていて、スーパーティーチャーが出てくるなと思いました。教科のベテランの先生方がフルに動いて、それに合わせて、地域の人たちが何かメリットがあるっていうことであると、そこに地域のスーパーティーチャーを呼び込むというか、その情報を各地域ではなくて人材バンクではないですけど、矢板市全体の中で人の銀行をどこかに集約しておいて、瞬時にどこかで総合教育で使いたいとかの活用ができるようにするというのも、小中一貫をやりながら、かなり特徴的な教育のやり方とか、やれる先生とか地域の人材とかがスポットが当てられるような気がするんですね。そういう意味では、お金が伴ってハード面が作れるのであればいいと思います。そうすれば地域の人たちも、ある意味で立つ瀬があるというか、「俺が行って教育の一環を担える」と思えば、泉の人が矢板中学校に行っても、プライドを保てるのかなと思います。

【市長】

教育大綱の目標5の小項目の、地域と学校が連携・協働して教育を進めるというところに繋がってくると思います。池田委員からいいパスが出ましたので、片岡公民館長と泉公民館長に、地域と、例えば公民館活動みたいなところが1つ大きな社会かと思いますが、そこの小中学校との連携みたいなのは、まずは、片岡公民館長から、公民館にいて感じるころはありますか。例えば、片岡コミュニティの取組をする中で一体化してやるとか、何か所見があればお願いします。

【片岡公民館長】

これは泉の話になってしまいますが、泉は小学校が統合されていますので、そのまま中学校にあがっていけるということで、小学校から中学校に違和感なく入っていけるということがあると思います。

片岡ですと、コミュニティの活動を小学校の時に片岡地区全体でやっている教室なども設けていますが、全員が参加するわけではありません。小中一貫になって1校になった場合、泉のように合同の運動会ができる可能性があります。片岡地区はこれから子どもさんが増える予定があるので難しいと思います。泉は中学生が小学1年生から6年生までの面倒をよく見ていて指導していますから、いい傾向だと思います。

【市長】

泉地区では上手くいくのではないかと、前泉公民館長の発言を受けて、駒野公民館長からお願いします。

【泉公民館長】

グリーンボランティアでは、中学生が苗を育てて、川沿いに小学生と中学生と地域の方が、マリーゴールドとかを植えるという作業をしました。中学生が小学生に教えるとか、地域の方がこうやって植えるんだよと言ったりすることが見られました。それをもっと大きくしていくということが、なかなかできていない状況です。

【市長】

泉地区は、小学校1校、中学校1校で、そこを泉公民館がカバーしている形ですが、地域の一体感というのはどうですか。

【泉公民館長】

一体感はやっぱり感じます。中学生は、小学生からずっと一緒だからと言っています。ただ、そこに誰かが入ってきたときにそこに溶け込めないのかなという感じはちょっとありますが、みんながカバーしてあげるというか、団結力はあると思います。

【市長】

団結力はあるけど、誰かが入ってきたときに、というのはありますか。教育長、そこはやっぱり難しい、小さな地域コミュニティのいいところと悪いところですか。

【村上教育長】

コミュニティの話とは別に、学校の中でのいろんな考え方でいうと、クラス替えがなく9年間ずっと同じ人たちでやるというのは、序列化が進みすぎてしまう。やっぱり教育の中では学力や体力の問題で、小学校4、5年くらいで序列化が決まって、それが中3までいくと、なかなか厳しいものがあるらしく、子どもたちの中では辛い思いをしている子もいるというところがあるので、小さすぎると厳しいのかなと思います。2クラスが最低条件じゃないかなと思います。

【市長】

文科省が2クラスというのは、要は、クラス替えができるということがポイントということですか。

【池田委員】

我々も異動があるから救われるときがありますものね。

【教育長】

それと、コミュニティスクールという考え方が、これが特色づくりにはいいのかなと思います。小中一貫でなくても、小学校だけでも地域が教育してくれる体制ができあがれば。コミュニティスクールの究極は、人事まで運営協議会が関わることなんですね。運営協議会の人たちがあの先生はこうなんじゃないかというところまで発言できる、最終的には校長が人事を決めますけれども、そういう発言ができるというところまでいくのには、地域でいろんな協力をしていかないと、そこまでの発言はできないと思うんですよ。先生方と一緒に授業の手伝いとかを地域でどんどんしてくれるとか、花壇が荒れたら自分たちで整備するとか、いろんなことを地域でやって、「俺たちの学校」だと盛り上げてくれるようなコミュニティになれば、理想的なコミュニティスクールが小学校だけでもできるかなと思います。そこまでは、なかなか難しいと思いますが、仕事や家庭を持っている中で、協議会のメンバーになるのはかなりの負担だと思うんですが、「自分の学校」だと思いつつながら、そこまで地域でやってくれるという意識があれば考えてもいいかなと思います。そこにいろんな付帯施設もつけていけば、子どもたちもいろんな繋がりの中で地域を学べるのかなと思います。

【池田委員】

視点がずれてしまうかもしれませんが、学校というのは危機管理のための1つの拠点という考え方がありますよね。そのコミュニティがあるところとないところでは、いざ、いろんな災害があったときの動き方がやっぱり違いますよね。そういう意味では統廃合で目指すところをどこに持っていくかというところで、学校の機能自体が活性化するような気がします。

【市長】

拠点施設というのは、それは体育館が避難所になっているとかそういうことではなくて、地域社会がそこにあるということですか。

【池田委員】

災害時にそういう役目を担う体制が、その地域に合った対応ができるというところが、コミュニティの核になるのかなと思います。

【市長】

この地域社会、小中学校の適正規模適正配置の検討委員会のなかで、その辺のところはどのように議論されているのかわかりませんが、いずれにしても、子どもの教育面から議論、検証していただいています。合わせて地域社会のシンボリックな存在、象徴であるということ、小学校、特に小さい単位になりますが、そこは大切にしなければいけない部分かなと、今日お話を伺っていて感じたところがございます。その中で、例えば泉公民館や片岡公民館、そういった施設だったり、泉公民館、片岡公民館が持っている今の機能だったり、いろんな事業だったり、そういったものをどのように結び付けていくかというところが重要なかなと思いました。まもなく5時15分になってしまうので、教育委員の方から一言ずつ所感を簡単にお願ひいたします。

【岡委員】

これからどうなっていくんだろうという思いは、地域の人も保護者もすごく興味のあることになってきている部分があって、みんな見ていることなので、みんなでより良い方向に繋げていければなと思います。

【池田委員】

ほんとにいろんな知識を得ました。長井小学校の今の活用の仕方のように、地域の方に学校がなくなってもいろんなことができるという図ができればいいのかなと思います。

【市長】

学校の跡地については、総合政策課が所管しております。学校の利活用については、いろいろアイデアを出していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【石塚委員】

関わっているのが子どもたちなので、子どもたちが心身ともによい環境で勉強ができるよう、いろんな意見を聞きながら勉強していきたいと思ひますし、それに従事していきたいと思ひます。

【教育長】

本日は、教育環境ということでお話いただきましたけれど、ソフト面も含めて、具体的に施設を含めて考えていけたら、これから30年後どうなるかは誰もが見えないところであると思ひますが、そこまで行っても今の学校や教育が成り立つように、今ここで計画を立てなければいけないと思ひます。検討委員会に大学の先生を2人も入れ、しっかりとした形を作ってくださいとお願いしていますので、先を見据えた学校や教育環境というのを考えてくれんじゃないかと期待しています。

【市長】

小中学校の適正配置につきましては、本年度中に、検討委員会から教育委員会に答申があったうえで、市長あての建議をしていただけるということでございます。そういった中で、最終的には私共の方でしっかりと判断をさせていただきたいと思っております。小学校、中学校のお子さんにとっても、また、地域社会にとっても大変重要な存在であると再認識させていただきました。その在り方については、一足早く西小学校の統廃合について取り組ませていただきましたけれども、残念なのは、うちの子どもが卒業するまで待つてくれとそれめいたお話がありました。これについては耳を貸すわけにはいかないのかなと。保護者の方のお気持ちも分からないわけではないけれど、この計画は、30年後、更にその先を見据えた矢板市の子どもの在り方、矢板のまちの姿を作っていく計画だと思っておりますので、そうではないんだということをしかりと私の説明責任を果たす中で取り組ませていただきたいと思っているところでございますので、この件につきましては教育委員の皆様にはご理解いただきたいと思っているところでございます。5時15分になろうとしていますので、本日のテーマに関する意見交換を終わらせていただきます。それでは、進行を総合政策課長にお戻しいたします。ありがとうございました。

4 閉会

【総合政策課長】

ありがとうございました。本日の会議結果につきましては会議録を作成いたしまして、

後日、市のホームページに掲載させていただきますので、よろしくお願いいたします。以上をもちまして、平成30年度矢板市総合教育会議を閉会いたします。皆様お疲れさまでした。

閉会 17:15